



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

みやぎの 11月号

農業普及現場

NEWS LETTER No.177 2021.11

紹介内容 (10/1~10/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援 1
 - 仙台農改：家族経営協定が締結されました
 - 石巻農改：農業法人若手社員のミニトマト勉強会の開催

- ② 新たな担い手の確保・育成 1
 - 亘理農改：仙台いちごの生産基盤の拡大に関する連携協定締結式が開催されました
 - 登米農改：第1回「女性農業者活躍支援研修会」を開催しました
 - 気仙沼農改：第51回東北農村青年会議で最優秀賞を受賞しました
 - 石巻農改：「石巻地域農福連携推進研修会」を開催しました
 - 栗原農改：有壁法人化研修会

〈農業大学校 先進農業体験学習〉

- 仙台農改：農業大学校の先進農業体験学習の巡回指導を行いました
- 大崎農改：先進農業体験学習に取り組む農業大学校生の巡回指導を行いました
- 美里農改：農業大学校の先進農業体験学習終了式が開催されました
- 仙台農改：農業大学校の先進農業体験学習の終了式を行いました
- 大河原農改：農業大学校の先進農業体験学習終了式が開催されました
- 亘理農改：宮城県農業大学校 先進農業体験学習終了式が開催されました
- 石巻農改：石巻管内の農業大学校先進農業体験学習終了式の開催
- 登米農改：宮城県農業大学校の先進農業体験学習が終了しました

- ③ 園芸産地の育成・強化支援 5
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなぶどう部会の「シャインマスカット」販売会を開催します！
 - 気仙沼農改：南三陸ねぎの産地維持・発展に向けた意見交換会を開催しました
 - 気仙沼農改：南三陸町で初のせり栽培検討会が開催されました
 - 亘理農改：JA名取岩沼きゅうり促成栽培の講習会が開催されました！
 - 栗原農改：きゅうりの相互視察研修会を開催しました
 - 登米農改：JAみやぎ登米米山支部タマネギ部会栽培講習会が開催されました
 - 亘理農改：前年より早く「仙台いちご」が初出荷されました
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなぶどう部会でシャインマスカット販売会を開催しました
 - 登米農改：JAみやぎ登米米山イチゴ部会現地検討会が開かれました

- ④ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援 8
 - 大崎農改：水稻種子の刈り取り・乾燥・調整作業が順調に行われています
 - 大河原農改：「農事組合法人ふるせきファーム」の設立総会が開催されました

2. 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- ① 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援 8
- 気仙沼農改：令和3年産の南三陸米新米の出荷が始まりました

3. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展 9
- 大崎農改：あ・ら・伊達な道の駅では、シャインマスカットの生育支援に取り組んでいます
- 栗原農改：花山ルビィふさすぐりスイーツ新商品販売開始！
- 大崎農改：大崎市岩出山でせりの生産者巡回を行いました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○家族経営協定が締結されました

令和3年10月12日

仙台農業改良普及センター



10月6日、水稻と野菜を栽培する仙台市の赤間敬さんのお宅で、家族経営協定締結式が行われました。

赤間さんは、後継者である士郎さんにも認定農業者として積極的に経営参画してほしいと、農業経営改善計画の認定を共同申請することとし、このたび敬さん御夫婦と後継者の士郎さんの3名で家族経営協定を結びました。

赤間さんの家では、以前から労働時間や給与について家族で話し合っていました。今回の家族経営協定締結により、営農や生活にかかる家族の目標のほか、役割分担などが明文化され、将来に向かって新たな一歩を踏み出すこととなりました。

家族経営協定とは、農業経営や生活・将来の目標について家族みんなで話し合い、意欲とやりがいを持って農業を行うためのルールです。普及センターでは、家族経営協定締結の御相談をお受けしております。

○農業法人若手社員のミニトマト勉強会の開催

令和3年10月19日

石巻農業改良普及センター



10月13日、株式会社めぐいと（東松島市）の若手社員4名を対象に、ミニトマトの病害虫防除と肥培管理について勉強会を開催しました。

（株）めぐいとでは、大型鉄骨ハウスでやし殻培土を用いたミニトマトの養液栽培を、「トマトベリー」と「サンチェリープレミアム」の2品種で行っていま

す。作型は9月下旬定植の抑制栽培で、現在は開花始期で、①病害虫の早期発見では資料（主要な病害虫の特徴と見分け方）を参考に、社員と普及員が3組に分かれて発生状況の調査を行いました。若手社員からは、生理障害と病害虫の見分け方など活発な質疑応答がなされました。病害虫を見る目が養われ、調査速度はどんどん早くなりました。②肥培管理では、給液と排液のEC、pH測定の意義を説明し、実際に測定を行い、現在の肥料の濃度を数値として把握することができました。若手社員からは、「自分が思っていたEC値と若干違った。」という感想がありました。

次回以降の勉強会を通して、若手社員が病害虫の早期発見と、生育ステージや生育量に合わせた養液濃度を調整できるよう、栽培技術の向上を支援していきます。

②新たな担い手の確保・育成

○仙台いちごの生産基盤の拡大に関する連携協定締結式が開催されました

令和3年10月1日

亘理農業改良普及センター



9月28日に、山元町の株式会社やまもとファームみらい野を会場に「仙台いちごの生産基盤の拡大に関する連携協定式」が開催されました。

この連携協定式は、全農宮城県本部が、新たな仙台いちご生産者の育成を目的に「いちごトレーニングセンター」を設置し、山元町内で新規就農者研修事業を実施することによるものです。事業の実施に当たり、全農宮城県本部、山元町、JAみやぎ亘理及び（株）やまもとファームみらい野が連携協定を締結し、新規就農者の確保と仙台いちごの生産基盤の拡大に向け、緊密な連携のもと、各種支援に取り組むこととしております。

令和4年度研修生募集の受付は令和3年10月1日より行われ、山元町内に就農を希望する新規就農者2名と、宮城県内で親元へ就農する1名の計3名を募集することとなっています。

普及センターでは、関係機関と連携し新規就農者の支援を行ってまいります。

○第1回「女性農業者活躍支援研修会」を開催しました
令和3年10月5日
登米農業改良普及センター



9月17日に登米市迫町のアルテラスおおあみで、世代を超えた女性農業者が参加した女性農業者活躍支援研修会を開催しました。この研修会は、若手女性農業者が先輩から農業や農家生活等を学ぶ機会であり、当日は、登米の食材で生産者の顔が見える商品開発に取り組む若い女性起業志向者も交えての開催となりました。

先輩女性農業者としてアグリレディーズネットとめの会員が参加し、次代を担う若手女性農業者の悩みを聞き、自身の経験に基づき助言されました。また、活躍事例として、アグリレディーズネットとめの佐々木まき子さんから、農業経営に野菜栽培を取り入れた背景や、家族経営協定を締結して夫婦で支え合いながら歩んできた道のりなどが紹介され、若手女性農業者と和やかな雰囲気で見聞交換が行われました。

さらに、起業を目指している3人が、佐々木まきさんが育てたクウシンサイを調理し、炒め物やサラダ、スムージー、パン、スイーツなどが提供されました。参加者はクウシンサイ料理の多様性に驚き、情報交換が盛り上がっていました。

普及センターでは、今後も女性農業者の世代を超えた交流や異業種とのマッチングなど、女性農業者の社会参画を支援してまいります。

○第51回東北農村青年会議で最優秀賞を受賞しました
令和3年10月8日
気仙沼農業改良普及センター



東北地域の農業青年が農業経営や農村生活で得た知識や技術、活動成果等を発表する第51回東北農村青年会議が9月2日に開催されました。発表はオンライン形式で行われ、東北各県の選りすぐられた発

表がある中、意見発表の部で、気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会に所属する大沼ほのかさんが、見事、最優秀賞を受賞しました。

大沼さんは、東日本大震災で大きな被害を受けた南三陸町の出身者ですが、地元で就農を決意した地域への思いや、師匠と慕う農家との日々、将来は訪れた人が自分の家に帰ってきたと思えるような農園カフェを開きたいこと等について発表し、夢に向かって真摯に行動する姿が高く評価されました。

大沼さんは、今後、全国青年農業者会議（オンライン形式）に出場予定です。

○「石巻地域農福連携推進研修会」を開催しました
令和3年10月20日
石巻農業改良普及センター



石巻地域における「農福連携」の取組促進と拡大を図るため、石巻地域農福連携推進研修会を開催し、農業者や市、農協等関係機関を含め33人が参加しました。

「農福連携」とは、農業と福祉が連携して、農業経営の発展とともに、障がい者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組です。東部地振管内では7つの農業経営体が農福連携に取り組んでいます。

本研修会では、宮城大学食産業学群フードマネジメント学類の作田竜一教授に講演していただきました。農福連携の課題と取組の拡大として、Ⅰ認知度の向上、Ⅱ取組の促進、Ⅲ取組の輪の拡大への取組、また、さらなる広がりがある取組として重度障害者等在宅者による農福連携を可能とするICT化について、名取市や登米市の取組事例を紹介いただきました。

次に、管内の農福連携の取組事例として、株式会社デ・リーフデ北上の阿部淳一氏からは、農作業の切り出しと見える化により環境を整備して障害者実雇用率11%を達成したこと、また、就労継続B型事業所YUTTARIの伊藤茶寿氏からは、障がい者が農作業を通して役割を自覚し、「働く」とはどういうことか発表していただきました。

今後も継続した支援を行い、農福連携の取組促進・拡大を推進していきます。

○有壁法人化研修会
令和3年10月25日
栗原農業改良普及センター



栗原市金成有壁地区では、ほ場整備事業を契機に地域農業を担う法人設立の機運が高まっています。

10月21日に、地域づくり組織「有壁創生会」と集落営農組織「有壁新町営農組合」を対象として法人化研修会を開催したところ、18人の参加がありました。今回は、栗原市一迫の農事組合法人ファーム南栗原の松田久義代表理事を講師にお招きして、法人化の経過、法人運営、経営管理、役割分担等、これまで試行錯誤しながら積み上げてきた経験のお話をいただきました。

また、法人を設立し、経営規模の拡大に伴い、作業の効率化・チェック体制、ミーティング、記録がより重要となることについてもお話をいただき、参加者はこれから自分たちが実践していくこととして真剣に講義に聞き入っていました。松田代表の具体的でかつ、飾らないありのままのお話から「法人となることの意味」の理解が深まりました。

今後は、宮城県農業経営相談所や農地中間管理機構と連携しながら、法人化に向けて具体的な話し合いを進めていきます。

〈農業大学校 先進農業体験学習〉

○農業大学校の先進農業体験学習の巡回指導を行いました
令和3年10月4日
仙台農業改良普及センター



令和3年4月に農業大学校へ入学した学生が、9月6日から10月8日までの33日間、県内の先進的な農家で体験学習を行っています。体験学習が始まって10日あまり、環境の変化、初めての作業にも慣

れ始める頃ですが、学習状況や健康状態、生活態度等の様子を見るため、9月16日・17日の2日間、学生11名がお世話になっている農場10か所を、農業大学校職員と一緒に訪問しました。農家からの「真面目に、一生懸命作業しているよ」との言葉に、うれしそうに頬を緩める学生もありました。

学生たちは学習先で、農作業だけでなく流通や加工、農家での生活など、たくさんのことを学び、一回り大きくなった姿で校舎に戻ることでしょ。

普及センターでは農業大学校と連携しながら、無事体験学習を終えるよう支援するとともに、今後も新規就農者を含め、地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

○先進農業体験学習に取り組む農業大学校生の巡回指導を行いました
令和3年10月4日
大崎農業改良普及センター



大崎農業改良普及センター管内では、宮城県農業大学校生5人が9月6日から約1か月間、農業者のもとで生産技術や経営管理を学ぶ「先進農業体験学習」を行っています。学生を受け入れている農業者は指導農士など、みなさん農業の各分野を牽引する実力のある方々です。

9月22日には、農業大学校の職員とともに各学習先を訪問し、学生の学習状況の確認と指導を行いました。どの学生も毎日の作業に意欲的に取り組んでいました。10月の研修終了時には、さらにたくましくなった姿を見せてくれることを期待しています。

普及センターでは、今後も地域の新たな担い手の確保・育成に取り組んでまいります。

○農業大学校の先進農業体験学習終了式が開催されました
令和3年10月12日
美里農業改良普及センター



9月6日から10月8日までの33日間、宮城県農業大学校1年生の先進農業体験学習が実施されました。美里地域では、地元出身者を含む5名が、先進的な農業経営を営む農業者のもとで研修しました。

研修当初には、緊張からか不安な表情であった学生も、研修が進むにつれて明るく活き活きした表情に変わりました。10月8日の先進農業体験学習終了式では、表情が引き締まり逞しくなった姿がうかがえました。

終了式には、体験学習を受け入れた農業者の方も参加し、各人より体験学習の感想等について話をいただきました。学生からは「農機具の整備や効率の良い農作業について教えていただき、将来農業を行う上で参考になりました」、「一生忘れられない貴重な経験ができました。学校に帰ってからの勉強に活かしていきたい」などのお礼の言葉があり、農業者からは「学校とは違う環境での研修で戸惑いもあったと思うが、よく頑張っていた」、「この経験を活かし目標に向かって頑張りたい」など、学生の頑張りに対する感謝やこれからの活躍に対する励ましの言葉がありました。

普及センターでは、これからも教育機関と連携して、新規就農を目指す志のある若者を支援してまいります。

○農業大学校の先進農業体験学習の終了式を行いました

令和3年10月13日

仙台農業改良普及センター



宮城県農業大学校の先進農業体験学習終了式が、10月8日、宮城県仙台合同庁舎の会議室で開催されました。

この先進農業体験学習は、農業大学校の1年生が、先進的な農業経営者のもとで約1か月間、農業の全般を学ぶ研修です。今年は園芸学部、アグリビジネス学部、畜産学部の合計11人の学生が、管内10か所の農場で研修に励みました。

参加した学生からは「農業の大変さだけでなく、『やりがい』を学んだ」、「栽培技術だけでなく、社会に出て役立つ様々なことを学んだ」と意欲的な声が聞かれました。また、受入れ農家側からは、「始めは『大丈夫かな?』と心配だったが、地道な作業に熱心に取り組む姿が見られた」、「体験学習をとおして、自分が何をやりたいのかを見つけてほしい」などと温かな声が聞かれました。

普及センターでは今後も農業大学校と連携しながら、青年農業者の確保・育成に努めていきます。

○農業大学校の先進農業体験学習終了式が開催されました

令和3年10月14日

大河原農業改良普及センター



宮城県農業大学校の1年生2人が、9月6日から10月8日までの33日間、大河原農業改良普及センター管内の先進農業者2人のもとで先進農業体験学習を実施しました。10月8日に大河原合同庁舎会議室において終了式が行われ、研修開始前と比べて一回り成長した学生の姿を見ることができました。

終了式には、学生のほか体験学習を受け入れた農業者の方も参加し、各人より体験学習の感想等について話をしてもらいました。学生からは「丁寧に教えていただいた」、「これからの自分の勉強に生かしたい」などのお礼の言葉がありました。農業者からは「石拾いなどの地味な仕事もコツコツしっかりとやっていた」、「真面目に頑張ってくれた。自分で仕事を考えてできるような人材になって欲しい」など、学生の頑張りに対する感謝や、これからの活躍に期待する言葉がありました。

なお、今回初めて受け入れてもらった農業者の方には、宮城県より感謝状が贈られました。11月26日には農業大学校名取教場にて、先進農業体験学習発表会が開催されます。

○宮城県農業大学校 先進農業体験学習終了式が開催されました

令和3年10月19日

亶理農業改良普及センター



宮城県農業大学校の先進農業体験学習の終了式が、10月8日、亶理農業改良普及センターの会議室で開催されました。

この先進農業体験学習は、農業大学校の1年生のカリキュラムで、9月6日から33日間実施され、水田経営学部、園芸学部、アグリビジネス学部の合計10人の学生が、管内9つの農場で研修に励みました。

参加した学生からは「様々な知識を身につける良い機会となった」、「体験学習後もオプションで研修を実施する」などの意欲的な声が、受入れ農家側からは「地道な作業に熱心に取り組む姿が見られた」、「卒業後は、我が社に就職して欲しい」などの温かな声が聞かれました。

普及センターでは今後も、地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

○石巻管内の農業大学校先進農業体験学習終了式の開催

令和3年10月19日

石巻農業改良普及センター



10月8日、石巻合同庁舎で農業大学校先進農業体験学習終了式が行われました。石巻管内出身の1年生2名が、東松島市の株式会社めぐいと、有限会社アグリードなるせで、9月6日から10月8日までの33日間先進農業体験学習を行いました。この体験学習は、優れた先進農家の経営手法や技術を体感し、経営者の人生哲学を学び、また、学生の心身を鍛錬することを目的に行われています。

学生からは、「法人が地域を大切に発展していること、仕事をする中で生じる責任感を実感した。視野が広がった」、「法人になじめるか不安だったが、温かく迎えてもらった。法人の中で仕事としての農業を学ぶことが出来た。学習したことを生かして地域の農業を盛り立てたい」という感想がありました。

また、法人からは「会社によくなじみ、熱心にメモを取り、勉強してくれた。社内ミーティングでも場の雰囲気作りをしてくれ、リードしてもらった。今後に期待している」、「地元の後継者として若い人が就農してくれることを頼もしく思う。限られた期間の中で教えるのが難しかったが、人間関係も含め学びの良い機会となったのではないかと思います。今後も地域農業の発展に寄与してほしい」と激励の言葉をいただきました。

○宮城県農業大学校の先進農業体験学習が終了しました

令和3年10月25日

登米農業改良普及センター



9月6日から10月8日までの33日間、宮城県農業大学校の先進農業体験学習が実施され、地元出身者1名を含む農大一年生2名が研修しました。

今回の2名は畜産学部の学生で、登米地域の先進的な農業経営を営む農業士や農業法人のもとで、牛の飼養管理などを学びました。

研修を通しての感想では、「牛を中心とした生活を過ごし、牛に関係するいろいろなことが勉強になった」、「高校では学べなかった管理や世話、特に初産に立ち会い貴重な経験ができた」など、研修を無事終え充実した表情がうかがえました。

また、受入農家の方々からは、「周囲からの協力も得ながら、将来の目標に向かって頑張りたい」といった応援の言葉や、「仕事をやるということに厳しいことも言ってきたが、何かあれば頼りたい」といった声をかけられておりました。

今後とも、この体験学習の経験を活かし、将来の目標に向かって勉学に励んでほしいと願います。

③園芸産地の育成・強化支援

○JA新みやぎあさひなぶどう部会の「シャインマスカット」販売会を開催します！

令和3年10月1日

仙台農業改良普及センター



J A新みやぎあさひな地区（大衡村、大郷町、大和町、富谷市）の生産者からなるJ A新みやぎあさひなぶどう部会の「シャインマスカット」が収穫期を迎えています。生産者が丹精込めてつくった「シャインマスカット」は、はじける食感とあふれ出す果汁、甘みもたっぷりに仕上がっています。収穫は10月いっぱい続く見通しで、各生産者の庭先やJ A直売所等で販売しています。

（※10月9日、J A新みやぎ元気くん市場仙台南店で「シャインマスカット」の販売会が開催されました。）

○南三陸ねぎの産地維持・発展に向けた意見交換会を開催しました
令和3年10月5日
気仙沼農業改良普及センター



9月15日、南三陸町生涯学習センター研修室を会場に「南三陸ねぎの産地維持・発展に向けた意見交換会」を当所主催にて開催しました。気仙沼・南三陸地域では震災後、農地の復旧が進み、平成25年から新たな園芸作物として本格的に「ねぎ」の生産が始まっていますが、当圏域の重点園芸品目として生産振興を一層推進するため、管内生産者と関係機関担当者を一堂に会した初めての意見交換会となりました。

はじめに当普及センターから管内のねぎの生産状況について情報提供した後、出席された農協園芸部会、営農組合、法人からそれぞれ栽培状況や今後の見通し等について説明をいただきました。出席者からは、従事者の高齢化や人員の確保・生産・設備面等での効率的利用などが課題としてあげられ、農協や町からもそれぞれ助言をいただきました。

最後に、今回の意見交換会を機会に、生産者と関係者との場として、今後も研修会や勉強会などを継続開催していくことを提案し、了承いただきました。

○南三陸町で初のせり栽培検討会が開催されました
令和3年10月5日
気仙沼農業改良普及センター



9月28日、J A新みやぎ南三陸地区本部主催の栽培検討会が、南三陸町でせりを栽培している株式会社グランドカンパニのせり田を会場に開催されました。

初めに今年から栽培を始める生産者や興味のある農業者に向けて、石巻青果の担当者が講師となり、せり栽培の基本や出荷形態について解説いただきました。また、当地域は豊かな水源に恵まれ、若手の生産者が多いため、産地としての可能性を感じるということでした。

J Aからはせりに登録のある農薬の紹介があり、特に除草剤は登録が少ないので、早めの除草を徹底

するよう呼びかけがありました。

普及センターからはせりの主な病害虫と対策について、また、県農業・園芸総合研究所で過去に取り組んだ緩効性肥料を用いた追肥省力化栽培について説明しました。

葉せりと根せりの違いや植付け初期の管理などについて活発な情報交換が行われ、今後のせり栽培の普及に有意義な検討会となりました。この栽培検討会が産地形成への第一歩となるように、普及センターでは関係機関と連携し引き続き支援を行っていきます。

○JA名取岩沼きゅうり促成栽培の講習会が開催されました！
令和3年10月12日
巨理農業改良普及センター



10月5日に、J A名取岩沼ハウスきゅうり部会の促成きゅうり栽培講習会が開催され、16名の出席がありました。

講習会では、埼玉原種育成会より、促成栽培の栽培管理や推奨する品種について説明があり、普及センターからは、CO₂施用の効果や使い方のポイント、初期コストについての説明を行いました。管内では、収量向上を図るために、CO₂施用を行っている生産者が増えており、さらなる普及が期待されています。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、きゅうりの収量向上と安定生産に向けて、支援していきます。

○きゅうりの相互視察研修会を開催しました
令和3年10月12日
栗原農業改良普及センター



10月5日、継続的改善手法（SPDCA）に取り組むきゅうり生産者3戸及び1法人（栗原市志波姫・若柳地区）を対象に、栽培上のポイントを学ぶ相互視察研修会を開催しました。今年6月に開催した第1回視察研修会では、対象農家が各々のハウスを見ながら情報交換を行っており、今回はさらなる生産意識向上と栽培技術習得を目的として、管内で高い技術力を持

つ生産者2戸を視察しました。

まず、各ハウスで生産者から作付状況について説明を受けた後、きゅうりの生育状況を見ながら、適期作業を行うための意識付けや効率的な管理方法、自分のハウス環境に合った品種選定などについて話がありました。参加者は自分の栽培管理と比較しながら、品種の特性や整枝・摘葉のタイミング等について幅広く質問をし、有意義な相互視察研修会となりました。

今回の視察を通じ、生産者が自らの栽培管理を見直す機会となり、気づきを得たことで、生産意識や栽培技術の向上が期待されます。

○JAみやぎ登米米山支部タマネギ部会栽培講習会が開催されました 令和3年10月14日 登米農業改良普及センター



10月12日にJAみやぎ登米米山支部タマネギ部会で栽培講習会が開催され、部会に所属する生産者14名が参加しました。

普及センターからは、これまでの作の振り返りをもとに、農薬の使用時期や方法、排水対策の見直しについて説明しました。生産者からは、病害虫対策や、土づくりなどについて質問としてあげられ、対策方法を確認しました。

また、協友アグリ株式会社から農薬について、片倉コープアグリ株式会社から肥料について、それぞれ情報提供をいただきました。

たまねぎはこれから苗の定植時期を迎えます。講習会で共有した情報をもとに、品質の良いたまねぎ生産が期待されます。

○前年より早く「仙台いちご」が初出荷されました 令和3年10月27日 亘理農業改良普及センター



9月18日、昨年より1日早くJAみやぎ亘理いちご部会のいちごが出荷されました。今年は定植後の気温が高く経過したことなどから、4名の生産者が同日に出荷し、出荷数は394パック、また「とちおとめ」と「にこにこベリー」2品種を同日に初出荷するという、近年にない状況となりました。

夕方の集荷時には、出荷者、JA、市場等から関係者が集まり、農協組合長から祝辞と激励の言葉をいただきました。集荷されたいちごは、新市場「仙台あおば青果」に向けて全量出荷され、最も高いもので1パックあたり15,000円で販売されました。これから11月にかけて出荷量は徐々に増加する見込で、来年6月まで出荷が続き、今作は全体で収量2,500tを目指していきます。

今後も普及センターでは関係機関と協力し、いちごの安定生産に向けて支援していきます。

○JA新みやぎあさひなぶどう部会でシャインマスカット販売会を開催しました 令和3年10月27日 仙台農業改良普及センター



10月9日、元気くん市場仙台南店（仙台市太白区茂庭）で、JA新みやぎあさひなぶどう部会が初の販売イベント「シャインマスカット販売会」を開催しました。

本販売会では、黒川地域（富谷市、大和町、大郷町、大衡村）でシャインマスカット等のぶどうを栽培していることをPRし、加えて消費者ニーズに応えたぶどうづくりを行うために、アンケート調査を行いました。

当日は、生産者とJA職員が店頭に立ち、房売りのほか、皮ごと食べられるシャインマスカットを手軽に購入してもらうため、粒パック（100g、150g、200g）を販売しました。試食された方の中には「おいしい」と、まとめ買いされる方もいました。家族連れが多く、房売りが人気でしたが、「1人で食べるのにちょうど良い」と粒パックを購入する人もいました。

参加した生産者は「どんな商品がよく売れるのかわることができた。今後の生産に活かしたい」と意欲を示していました。

普及センターでは購入者に行ったアンケートをとりまとめ、その結果を部会の今後の販売に活かしていく予定です。

○JAみやぎ登米米山イチゴ部会現地検討会が開かれました
 令和3年10月28日
 登米農業改良普及センター



10月25日に、JAみやぎ登米米山イチゴ部会員9名が参加して現地検討会が開催されました。米山町および迫町の部会員のほ場6か所を訪問し、県農業・園芸総合研究所から、病虫害防除やハウス内の環境について、普及センターから、定植前に行った花芽検鏡結果をもとに、現在の生育状況と花芽の揃いについて指導を行いました。また、株式会社ケーエスならびにアリストライフサイエンス株式会社より、天敵農薬及び花粉交配用のマルハナバチ等の使用方法について説明がありました。今年度は花芽の揃いもよく、冬に向けてより一層美味しい米山いちごの出荷が期待されます。

④収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○水稲種子の刈り取り・乾燥・調整作業が順調に行われています
 令和3年10月7日
 大崎農業改良普及センター



来年播種用の水稲種子の刈り取り作業が、9月8日頃から始まっています。それに引き続いて、乾燥・調整・袋詰め作業も行われています。本年は稲刈り時期の降雨が少ないため、刈り取り作業は順調に進んでおり、充実した品質の良い種子が生産されています。普及センターでは、種子の発芽率などの生産物審査を行うとともに、引き続き高品質の種子生産を支援していきます。

○「農事組合法人ふるせきファーム」の設立総会が開催されました
 令和3年10月29日
 大河原農業改良普及センター



10月7日、川崎町で「農事組合法人ふるせきファーム設立総会」が開催されました。同法人については、これまで関係機関が一体となって法人化に向けた支援を進めており、来賓からは「川崎町のモデル事例として頑張ってもらいたい」との祝辞がありました。代表理事に選任された佐々木氏からは「中山間地帯で条件が不利な地域であるが、農作業の効率化に向けて農地整備事業に取り組むとともに、本法人が地域の担い手として農地を集積し、水稻、そばや園芸品目を作付けして、地域農業の維持・発展に寄与したい」と決意表明が行われました。本格的な営農開始は次年度からとなるため、普及センターでは今後も関係機関と連携を図りながら、同法人がスムーズに営農開始できるよう支援していきます。

2. 農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○令和3年産の南三陸米新米の出荷が始まりました
 令和3年10月11日
 気仙沼農業改良普及センター



9月27日に本年産「南三陸米」の新米出発式が行われ、今年もおいしい「南三陸米」が無事皆様の食卓に届くよう、市長はじめ関係者が出荷を見送りました。「南三陸米」は、JA新みやぎ南三陸地区本部管内の気仙沼市、南三陸町及び登米市津山町で育てられ、栽培履歴が明確な「ひとめぼれ」のうち、一等米のみを対象にしています。

今年は8月上旬まで高温が続き生育がかなり早まった一方、お盆前後は一転して長雨による低温・寡照が続きました。稲の栽培には厳しい条件となりましたが、農家の皆様の努力により、高い品質を維持することができています。

今年も素晴らしい品質に仕上がった「南三陸米」、秋の味覚としてぜひ御賞味ください。

3. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○あ・ら・伊達な道の駅では、シャインマスカットの生育支援に取り組んでいます

令和3年10月1日

大崎農業改良普及センター



大崎市岩出山の「あ・ら・伊達な道の駅」では、お客様の要望が多い「ぶどう（シャインマスカット）」の販売拡大を目指し、新規作付を中心とした生産支援に取り組んでいます。

すでに数年前から栽培している人もいますが、新規に栽培する人を中心に苗木導入の助成を行い、栽培管理技術の習得に向けては普及センターと連携して、各戸巡回や集合研修を定期的に行っています。6月には出荷者のハウスで栽培されているぶどうを見ながら、今後の管理等について検討会が開催されました。

その後、7月の巡回では一部で病害が心配されましたが、8月にはその心配を打ち消す程の順調な生育となりました。

○花山ルビィふさすぐりスイーツ新商品販売開始！

令和3年10月25日

栗原農業改良普及センター



栗原市花山地区では、特産のふさすぐり「花山ルビィふさすぐり」を使用した商品開発を進めています。

栗原市内の菓子店が、花山地区で生産したふさすぐりで新商品を開発し、店舗に掲出する商品説明ポップ等は、地元の高校生が作成するコラボ企画です。新商品は、花山地区の道の駅や温泉で販売し、希少性を生かした地産地消の取組として地域活性化へつなげることを目的としています。

10月7日には、公益財団法人仙台市産業振興事業団ビジネス開発ディレクターのカワシマヨウコ氏を講師に、テスト販売に向けて試作品の検討を行いました。生産者、販売者、高校生など10~70歳代の幅広い年代が参加し、形・味・食感等の感想や意見を出し合ったほか、花山で販売する場合の客層、年代、購入目的を考慮した講師からのアドバイスもありました。

これらを踏まえ、商品のブラッシュアップを行い、10月は紅葉シーズンで来客数も増えていることから、新商品第一弾としてダックワーズの販売をスタートしました。さらに2つの商品のブラッシュアップを行い、販売していく予定です。

○大崎市岩出山でせりの生産者巡回を行いました

令和3年10月29日

大崎農業改良普及センター



10月19日に県農業・園芸総合研究所と大崎農業改良普及センター、JA新みやぎいわでやま地区本部でせりの生産者を巡回し、現在の生育状況の確認と、今後の管理について指導を行いました。

今年は天候も良く、これまでの生育は概ね順調です。引き続き病害虫防除の徹底と、気温低下に伴う保温のための水深の管理に気をつけるよう伝えました。

岩出山産のせりは11月から出荷される予定となっています。直売所やスーパー等で見かけた際は、ぜひご購入ください。

普及センターでは引き続き、品質の良いせりが数多く生産されるように支援していきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.177

発行日:2021年11月25日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp